

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（7月18日-24日）の新規陽性者数は29,545人（先々週 23,996人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R) *1は1.22 [最小値0.57-最大値1.74]、このうち那覇市は1.25 [0.71-1.83]でした。また、宮古は1.39 [0.84-2.24]、八重山は0.92 [0.74-1.19]でした（図1）。八重山を除いて、感染拡大が続いています。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部 1,759人（先々週 1,331人）、中部 10,702人（先々週 8,919人）、那覇市 5,567人（先々週 4,369人）、南部 8,292人（先々週 6,348人）、宮古 1,350人（先々週 875人）、八重山 1,611人（先々週 2,017人）でした。県内で先行して爆発的な流行を認めていた八重山地域では、先週より減少に転じています。しかし、それ以外の地域では感染拡大が続いています（図2）。

県外からの渡航者は240人（先々週 145人）でした。県内で診断される陽性者全体に占める割合は1%以下ではありますが、全国での感染拡大を受けて、渡航者の感染例が急速に増えてきています（図3）。最多の渡航元は東京都の63人で、福岡県 26人、大阪府 24人と続き、33都道府県に渡ります。

年齢階級別推移

年齢階級別では、40代 4,621人（16%）と最多であり、10代 4,549人（15%）、10歳未満 4,482人（15%）と続きます（図4）。20歳以上の年代が最多となるのは、今年3月以来のことです。高齢者の増加率が高く、とくに90歳以上の前週比は1.74となっています。高齢者施設で多発している集団感染が背景にあるものと考えられます。

推移をみると、20歳未満の増加が頭打ちになっています。感染拡大が減弱している可能性もありますが、軽症者は救急受診を控えるよう県が呼び掛けていることの影響も考えられます（図5）。

なお、今年1月以降の20歳未満の累積陽性者数は93,756人であり、この世代全体の28.6%（全国14.5%）となっています。一方、3回目のワクチン接種が完了者は25,937人であり、この世代全体の7.9%（全国14.5%）となっています。

入院患者数推移

先週の新規入院患者数は434人（先々週 403人）でした。入院患者数は先週末時点で788人（7月17日時点 501人）と急速に増加しており、このうち酸素投与など中等症患者は362人（7月17日時点 220人）、気管挿管など重症患者は8人（7月17日時点 4人）と増加しています（図6）。

また、7月24日時点で、沖縄県内において救急受入を担っている21の重点医療機関において、医師109人と看護師365人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師134人と看護師604人が働くことができなくなっています（図7）。現在、急速に休職者数が増加している

ことから、沖縄県の救急医療と入院医療の機能が大幅に低下しています。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で 137 施設 1,177 人（7 月 17 日時点

655 人）と急速に増加しており、すべての療養者への巡回診療が困難となっているほか、介護機能そのものが維持困難となっています（図8）。

【今後の見通しと対策】

沖縄県は 24 日、入院患者が増え続けて医療が逼迫していることから、医療フェーズを現在の「5」から「緊急フェーズ1」へと引き上げました。これは、県内の医療機関が、緊急性の低い入院、手術、検査などを制限することで、緊急に入院が必要な患者のための病床を確保する診療継続計画（BCP）を各病院に発動させるものです。

県内では、感染の拡がりにより医療需要が増大する一方で、医療従事者や子どもの感染により出勤できなくなることで供給能力が低下しており、命を救うことを最優先とした体制へと切り替えられました。このため、これまで受けられていた一般的な治療は受けられなくなり、緊急フェーズが解除されるまで、自宅で療養しながら待たなければなりません。

重症化リスクの低い若年の軽症者については、できるだけ救急受診を避け、日中に近隣の診療所を受診するようにしてください。検査を希望される場合には、無症状であれば、県の設置する接触者 PCR 検査センター、または市中の民間検査機関を受検してください。症状を認める場合には、発症日の翌日以降、市販の医療用抗原検査キットで自己検査することもできます。くれぐれも、検査を目的として救急外来を受診することのないようお願いします。

一方、呼吸が早い・苦しい、もうろうとしている、ぐったりとしている、水分や食事がとれない、高熱が3日続いている、顔色が悪いなどの症状を認めるときは、早めに救急外来を受診することをお勧めします（図9）。

夏休みを迎えて観光シーズンになりますが、沖縄県を訪れる観光客の方々も、体調を崩したり、

怪我をしたりしても、すぐには治療が受けられない可能性があります。持病のある方は定期薬を多めに持参するようにしてください。かかりつけ医と相談して、オンラインでの診療が受けられるようにすることも検討してください。

若い人たちも、旅行中には無理をせず、飲みすぎたり、怪我をしたり、溺れたりしないようにしてください。過度な日焼けや熱中症には十分に注意してください。解熱薬や胃腸薬、炎症を抑える軟膏などの基本的医薬品を持参しましょう。現在、医療緊急フェーズが発動されている地域であることを理解して、沖縄旅行に来てください。

なお、旅行中にコロナ感染が確認された場合、発症から 10 日目までは飛行機やフェリーには乗れなくなります。沖縄県では、10 か所の療養ホテルを確保しており、できるだけ観光客の方々を受け入れるようにしていますが、とくに離島では限界となっています。そうした場合、ホテルでの延泊をお願いしていますが、次の予約客がいる場合には、チェックアウトを余儀なくされることがあります。

本土であれば、陸路で自宅に戻る選択肢がありますが、沖縄県では、こうして行き場を失う恐れがあります。行き場がないからといって、入院することはできません。行き場がないからと救急外来で粘られることがあります、申し訳ありませんが、軽症である限りお引き取りいただいています。

旅先でこうした事態に直面することのないよう、旅行開始の2週間前までにワクチン接種を最新の状態とし、旅行開始前に PCR 検査で陰性を確認しておくことを強くお勧めします。また、旅行中に

感染することのないよう、人ごみではマスクを着用し、手指衛生を心がけるなど、自分と周囲を守る感染予防を心がけてください（図 10）。

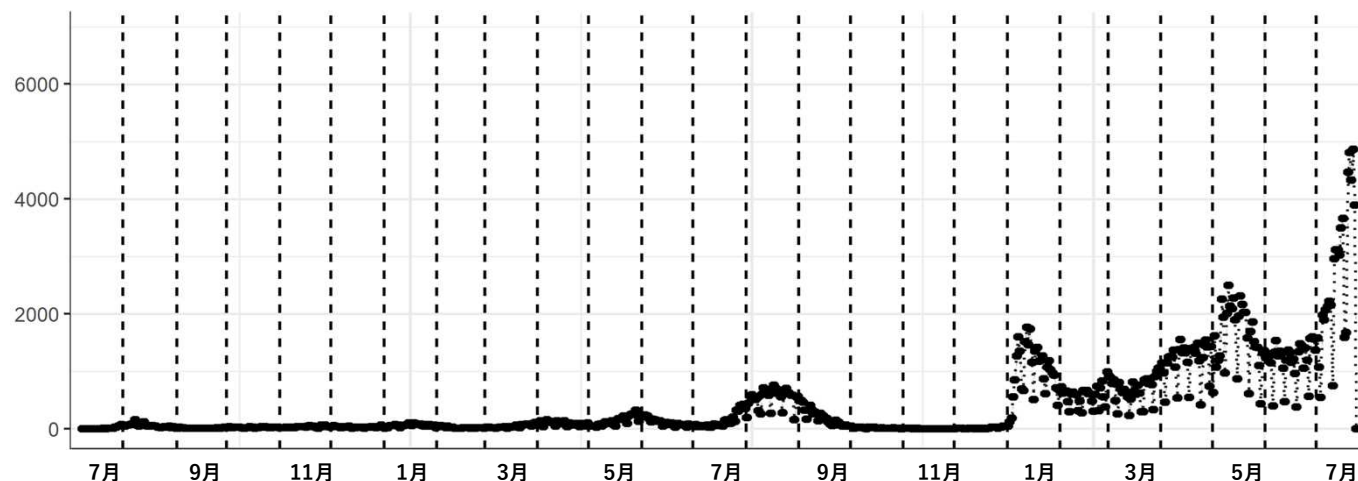
今週の新規陽性者数は 28,000-40,000 人となると見込みます。ただし、検査・受診体制が限界となっているため、実際の感染者数に比して報告数はさらに少なくなる可能性があります。ただし、抗原検査キットの配布が始まれば、この限りではありません。入院患者数については、今週末までに 900-1,000 人に至ると見込まれます（図 11）。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

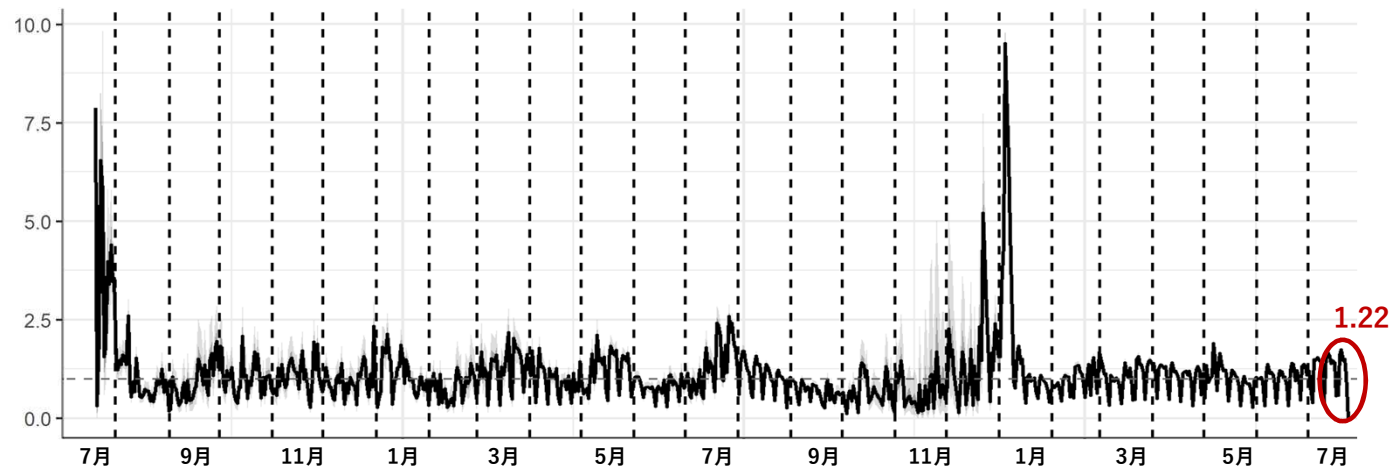


図2 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

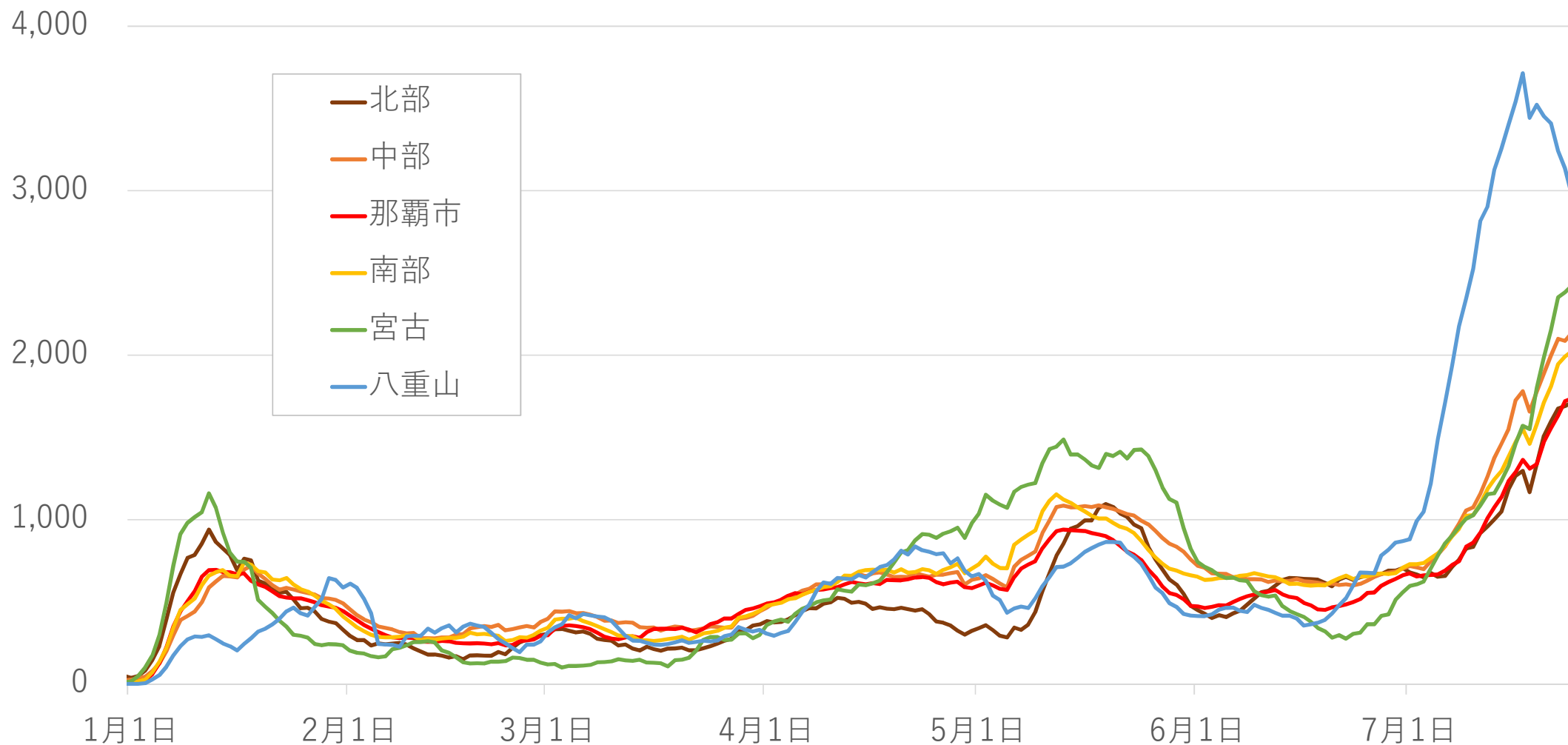


図3 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）

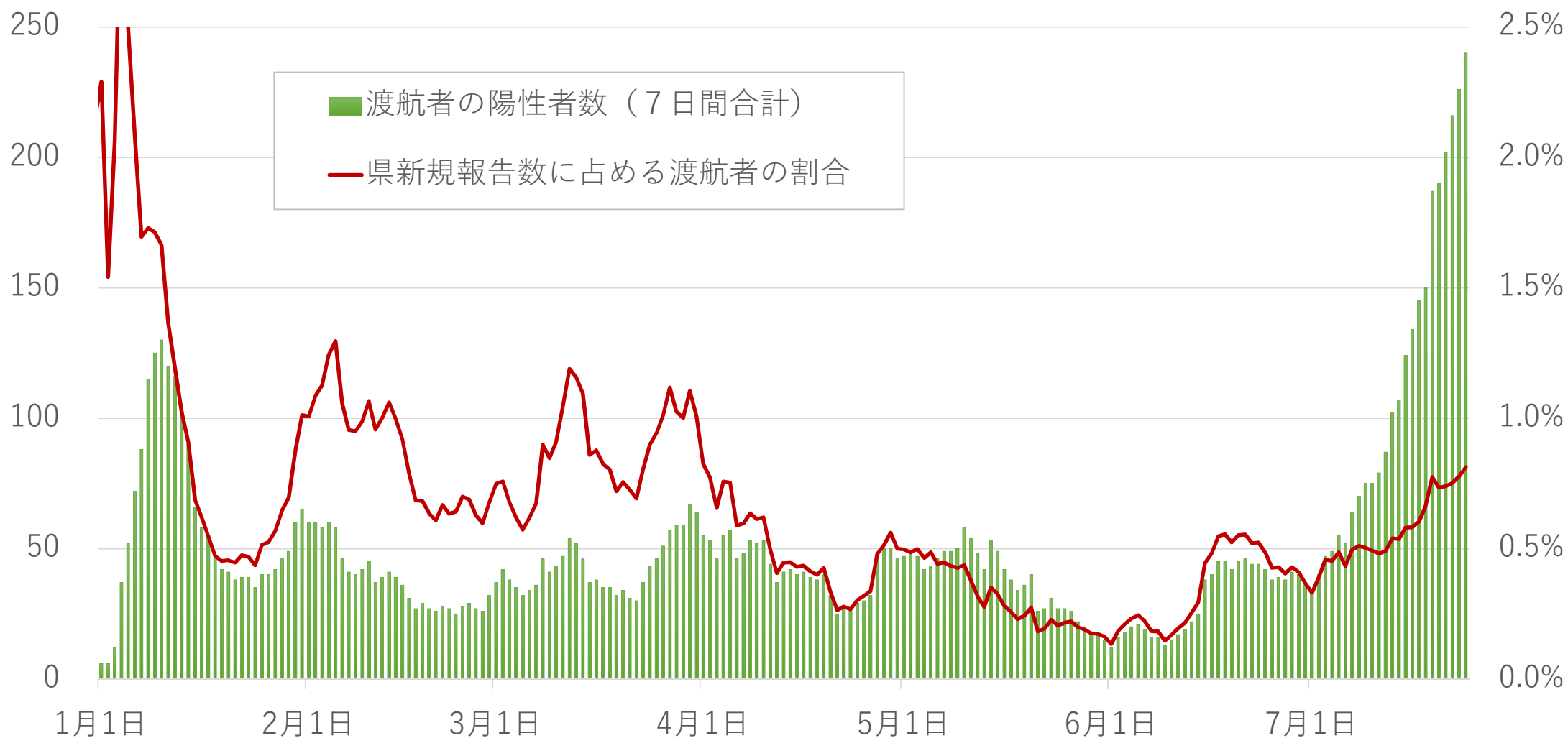


図4 性年齢階級別にみる陽性者数（7月18日～24日）

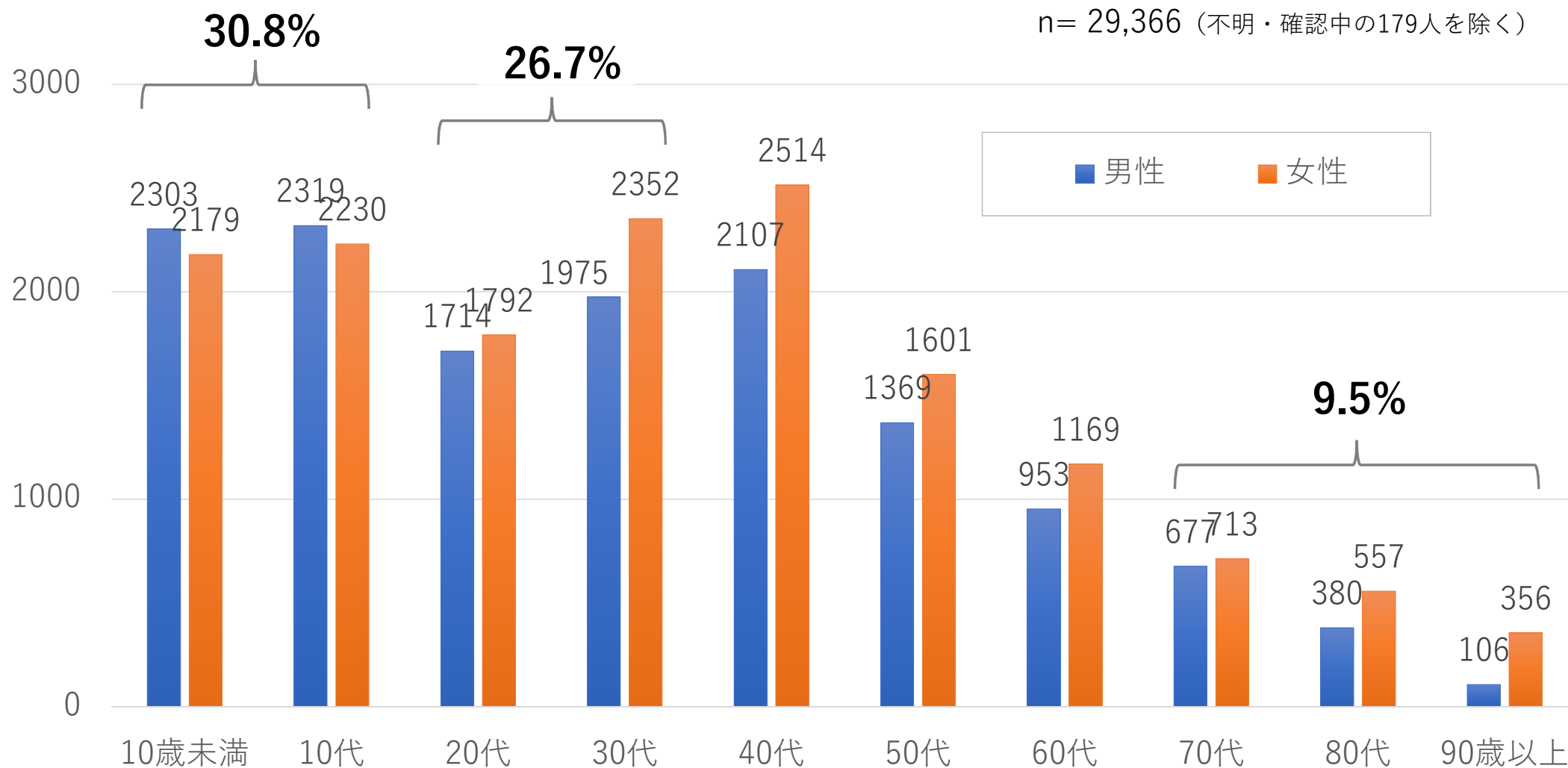


図5 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移（人口10万人あたり7日間合計）

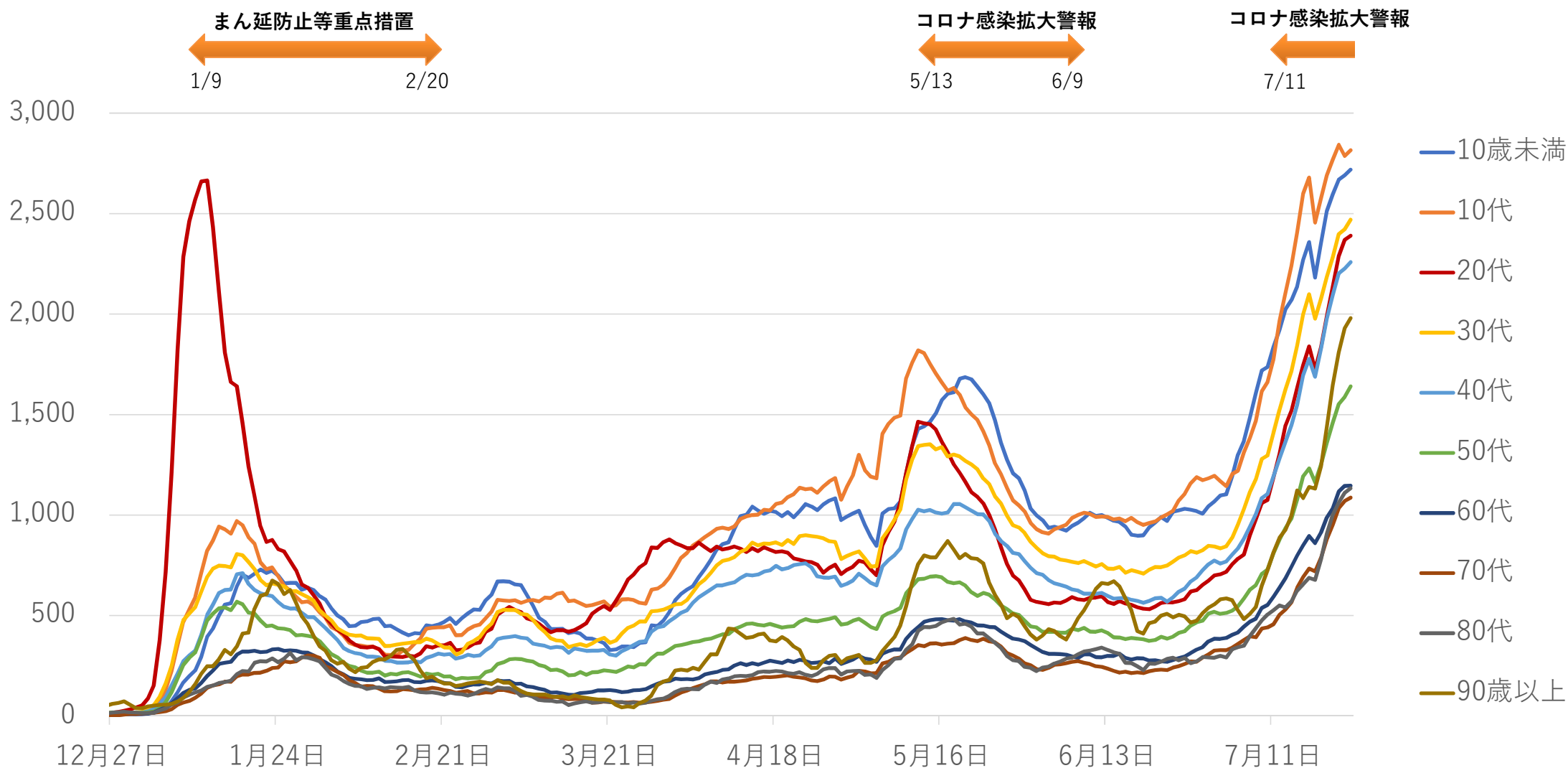


図6 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移（沖縄県）

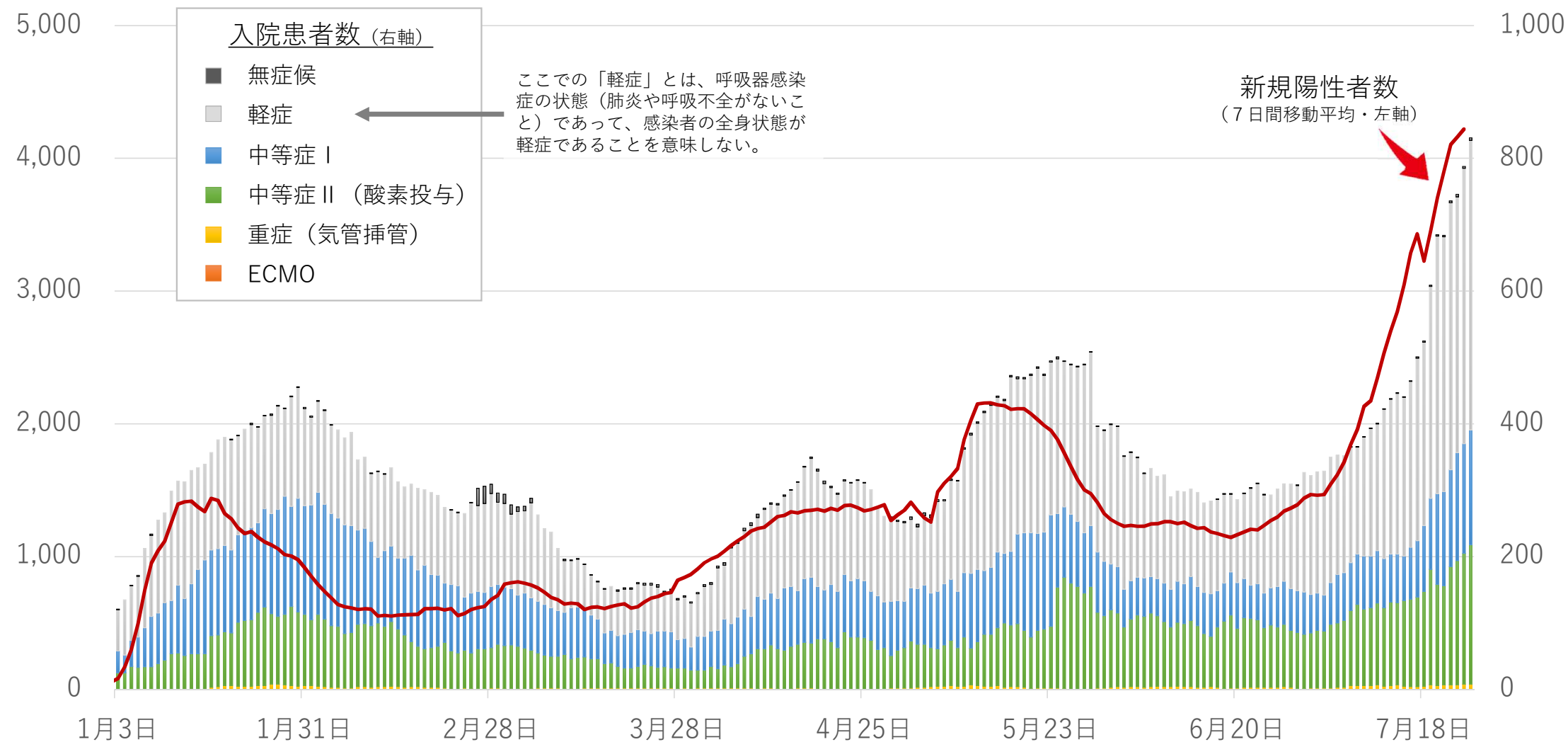
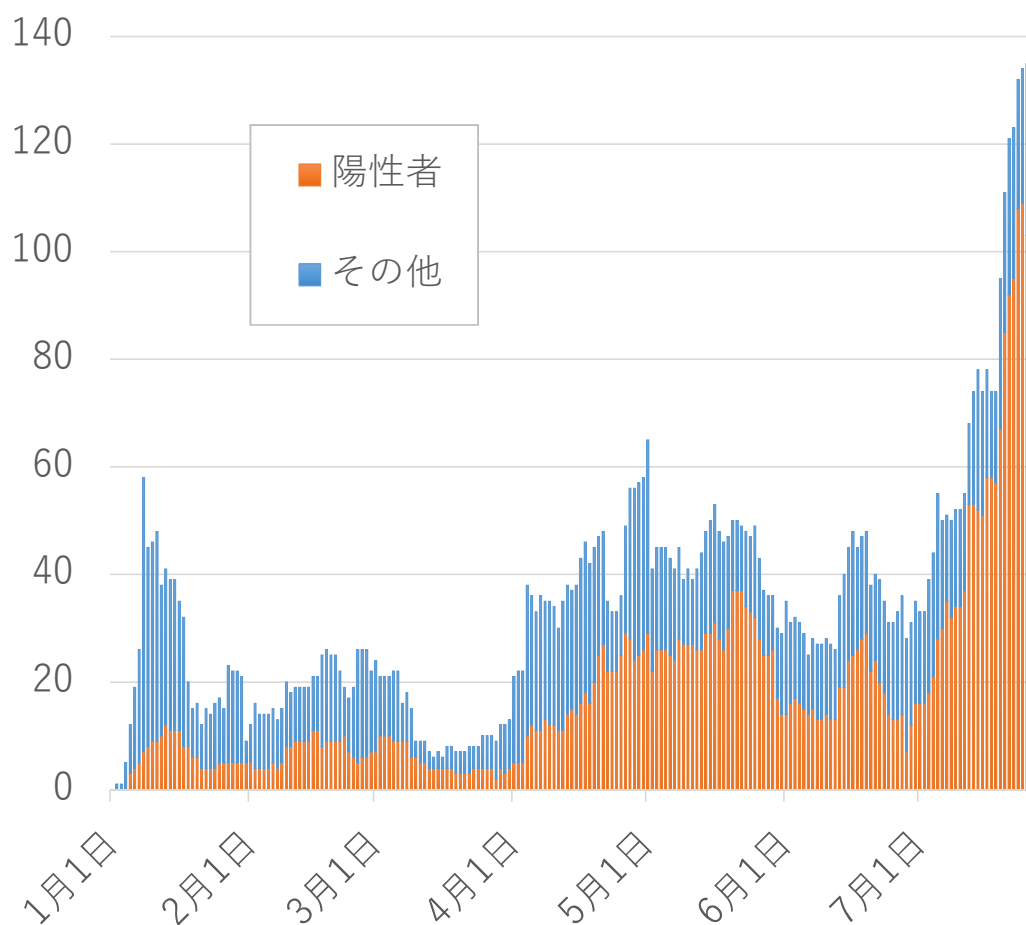


図7 重点医療機関（21病院）における医師、看護師の休職数

医師



看護師

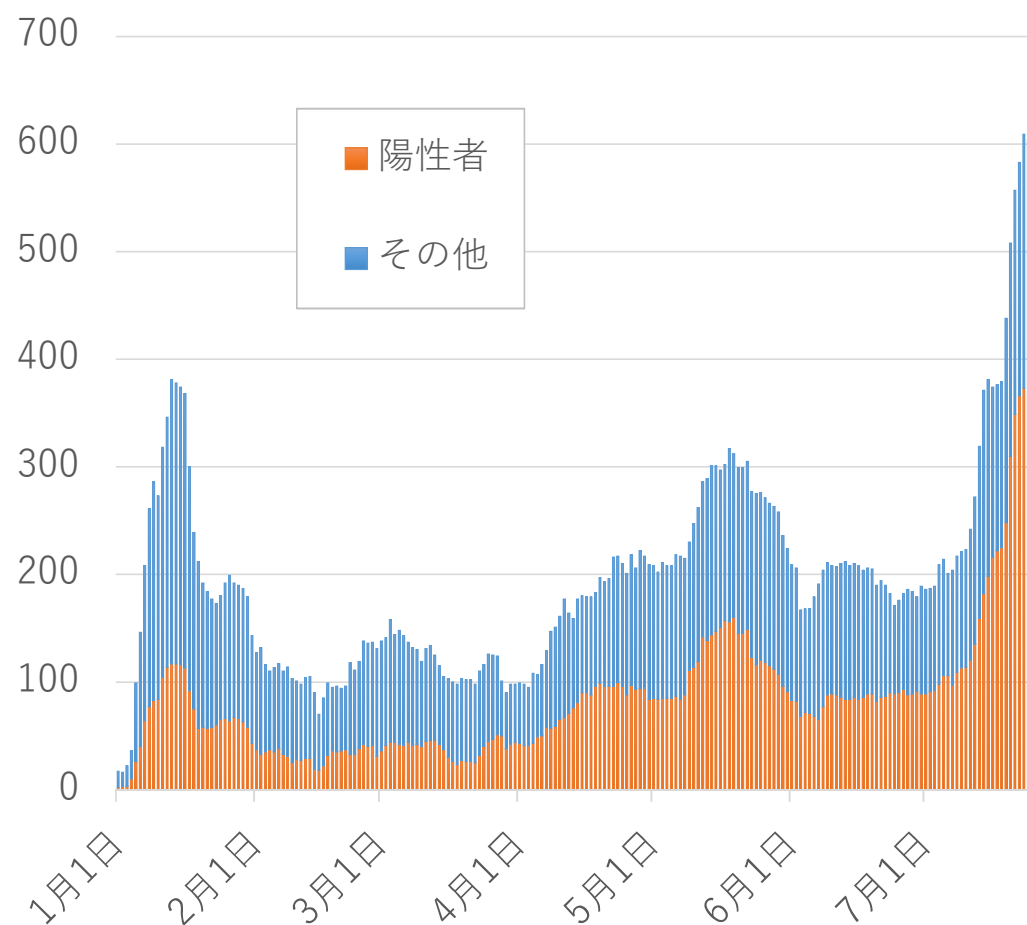
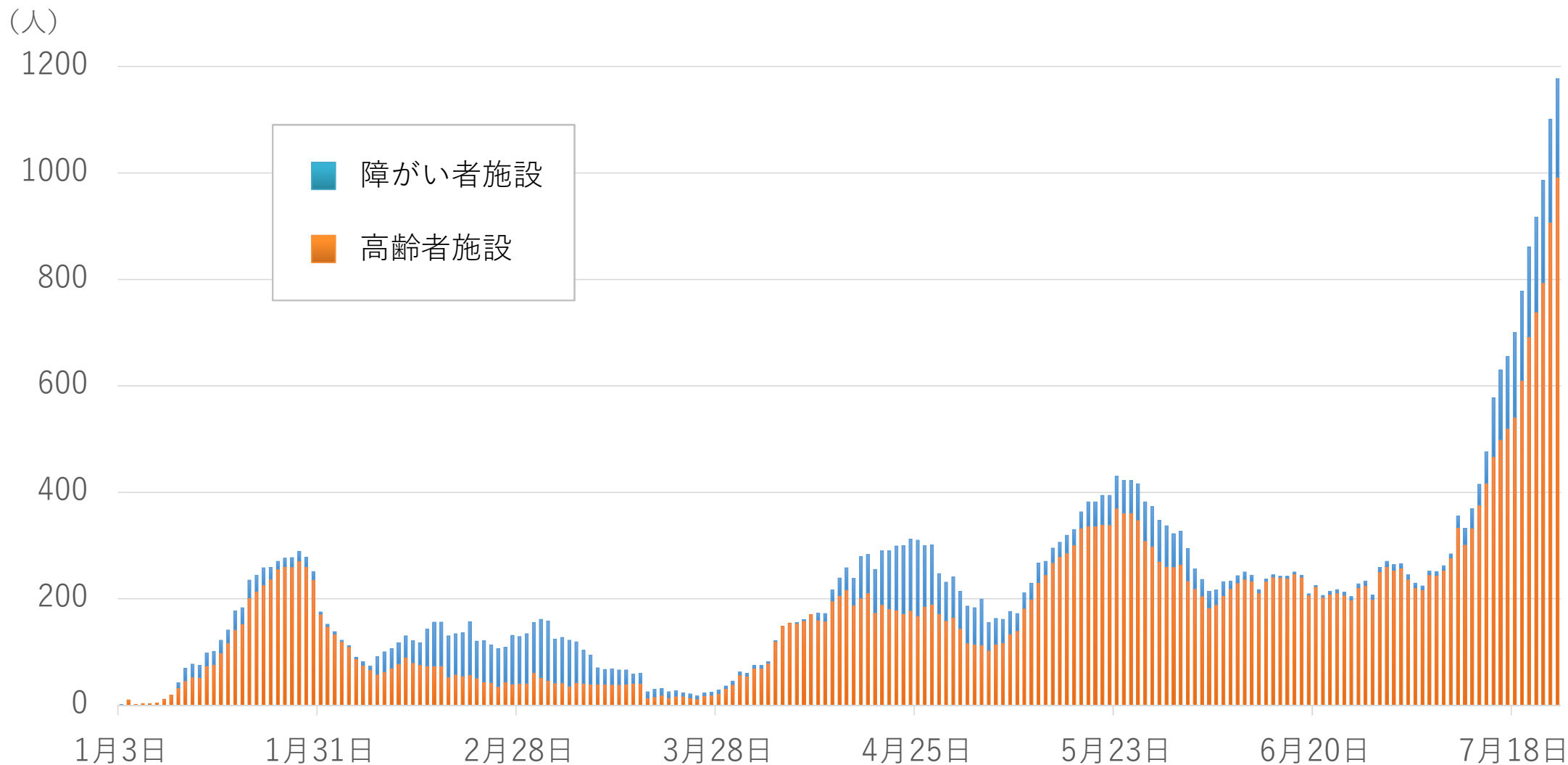


図 8 社会福祉施設における施設内療養者数



2022年7月21日



沖縄県

図9 医療非常事態版 コロナかな？ と思ったら

あなたを守り、医療を守るために協力いただきたいこと

	検査を希望するとき	受診を希望するとき
無症状	● 県の設置する接触者PCR検査センター、または市中の民間検査機関を受検してください。	● 症状を認めないときは、受診しないでください。不安なときは、かかりつけ医に相談しましょう。
軽症	● 県の設置する接触者PCR検査センターを受検してください。接触歴が明らかでなくとも検査が受けられます。 ● 迅速に結果を知りたいときは、発症日の翌日以降、市販の医療用抗原検査キットで自己検査することもできます。結果が陽性のときは、抗原定性検査・陽性者登録センターに報告してください。 ● 小中高生では、症状を認めるとき、申し込むことで抗原検査キットが郵送されます（無料）。	● 日中に近隣の診療所を受診してください。軽症での救急外来受診は、できるだけ避けてください。 ● 受診先が分からない場合には、県コールセンター（098-866-2129）に相談してください。 ● 急な子どもの症状で対処に迷うときは、#8000番に相談することができます。 ● コロナ感染が確定している方が受診されたいときは、お伝えしている連絡先に電話してください。
中等症以上 ※	必ず受診しましょう ➡	● かかりつけ医に相談するか、状態が悪いと判断したら早めに救急外来を受診してください。

接触者PCR検査センター（予約）



中部



南部



宮古



八重山

民間検査機関



抗原検査キット （購入案内）



小中高生向け （郵送申込）



陽性

発熱外来対応 医療機関



子どもの体調不良 見守るポイント



抗原定性検査 陽性者登録



※ 呼吸が早い・苦しい、もうろうとしている、ぐったりとしている、水分や食事がとれない、高熱が3日続いている、顔色が悪いなど

医療コーディネーター案

図10 旅先で感染を予防し、感染を拡げないために 沖縄県を訪れる方々へ

旅行前 	旅行開始の2週間前までに、できるだけワクチン接種を最新の状態としておきましょう。
	帰省や民泊、イベント参加など、旅先での感染リスクが高いときには、旅行開始の直前にPCR検査で陰性を確認してください。
旅行中 	人ごみではマスクを着用し、手指衛生を心がけるなど、自分と周囲を守る感染予防を心がけてください。
	沖縄県および滞在先の市町村、利用する事業者（ホテル、ダイビングショップ等）が求める感染対策ルールに従ってください。
旅行後 	体調不良のときは、外出せずにホテルでゆっくり休んでください。検査陽性の場合には、医療機関の指示に従ってください。
	イベント参加など、旅先で感染リスクが高かったときには、高齢者など重症化リスクの高い方に会うのは1週間待ちましょう。
	旅行から戻って症状を認め、検査陽性だった場合には、宿泊したホテルや利用した事業者に連絡してください。

図11 今後1週間（7月25日-31日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（7月31日時点）		
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	12,717	25,609	51,570	660	818	1,080
宮古圏域	657	1,324	2,666	25	32	44
八重山圏域	844	1,699	3,421	46	57	75
合計	14,218	28,632	57,658	730	907	1,199